



感動したぶんだけ、大きくなれる 森のものがたり

【宮城学院女子大学附属認定こども園 森のこども園】

秋も深まったある日、しーちゃんと学君は
宮城県仙台市にある森のこども園にお邪魔しました。



宮城学院の深い森に囲まれた「森のこども園」。一歩足を踏み入れると園児たちの楽しそうな声。豊かな森と固定された遊具のない、一面芝生の園庭が迎えてくれます。

森のあちこちで、園児たちが思い思いに遊んでいます。ここには高いフェンスで区切られた境界線はありません。大人が伝えなくても、自分で考え、安全かどうか分かるのだそうです。

木のテーブルの上で土をふるいにかけているグループがいました。細かくなった土と小さな虫を観察して、「土の中にはブンカイシャがいるんだよ」「ブンカイシャってなに？」年長さんたち



(上) みんなで分解者を観察しよう
(左下) リュウノヒゲにそっと触ってみたよ
(右下) リュウノヒゲの実を拾ったよ

が、葉っぱを食べて土にしてくれる虫「分解者」を探していました。ピンセットですつまみ、シャーシで観察。「うじゃうじゃ虫が2匹いた!」「これはイトミミズだよ!」小さな博士たちは、しーちゃんの目をまっすぐ見つめて教えてくれました。

「リュウノヒゲの実を教えてくださいよ」と年長さんから声をかけられ、学君は年少さんたちと森の中へ。小さな緑色の実こそと触れて「つるんつるんだ!」思わず笑顔になります。

「これから青くなるから採ったらダメだよ」「みんなの分もあるかな」「四つも拾ったよ。うれしいね」森に包まれ、

不思議と感動、そして優しさに出会えたひとときでした。

毎日が飽きることもない発見の連続です。ただ歩いているだけでも、自分たちで次々に新しい遊びを見つけていきます。

「不思議に思う心、感動する心、思いやりの心—子どもの根底に息づく人間性や倫理観。幼児期の今だからこそ教えなくてはいけないことを伝え、保護者とともに子どもを育てていきたいと思っています」と沢田石園長が話してくださいました。

明日はどんな発見と感動が待っているのでしょうか。